

ふくまちヒロバラボのまとめ

2025年（令和7年）12月1日

福山市 企画財政局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

ふくまちヒロバラボについて

1. 目的

- これからの福山の担い手となる若者が今後の駅前広場のあり方について議論できる場をつくり、市民や来街者がワクワクするような広場を一緒につくっていく。
- 広場が変わることの議論を通じて、広場の活用に対する応援団となり、若者や女性に情報を届けるハブとなる人を増やす。
- 将来の駅前広場運営への協力者を発掘する。

2. 対象者

40代までの「福山駅前を良くしたいという思いのある人」（公募）

3. 参加者

43名が参加（うち女性26名、男性17名）



第1回～第3回のまとめ

第1回（10/5）

将来の駅前広場の過ごし方やシーン

- 買い物を楽しむ。
- イベント（スポーツや音楽など）をする。
- 勉強や仕事ができる。
- こども・家族が集まる。
- 駅前だからこそ、色々な人と出会う。
- 誰もが使いやすく、訪れやすい。
- 歩行者が安心・安全に過ごせる。
- 来訪者や居住者が、災害時に避難スペースとして活用できる。
- 情報や案内が簡単に取得できる。
また、福山の産業などの情報やモノにも触れられる。
- まちの第一印象をつくる。福山らしさが大事。城の中にある駅前広場で、歴史・文化を学べる。

第2回（10/26）

駅前広場の機能配置について

交通（バスやタクシー乗降場）の配置について

- 駅前広場の南側にバス乗降場を配置する。
- 伏見町の北側にバス乗降場を整備する。
- バス乗降場を分散して配置する。
- 広場全面を建物にし、各階に広場、タクシー乗降場、バス乗降場を配置する。
- エフピコRiMにバス乗降場を配置し、シャトルバスで輸送する。

広場機能の配置について

- 勉強や飲食などのんびり過ごせる滞在エリアと、イベントやマルシェなどができるオープンエリアの両方が必要。
- 福山城の遺構を表現する。水辺や石垣などを配置する。
- 夏の暑さや雨などの対策として、大屋根や木陰などを配置する。
- 東西南北へ迂回せずに行き来ができる。

第3回（11/8）

将来の駅前広場で見たい「福山らしさ」

- 福山の歴史やストーリーを駅前広場で表現しながら、未来の福山らしさをつくっていく。
- 都会過ぎず、田舎過ぎず、ちょうど良い「福山らしさ」をつくる。
- 人を通してつながることで、交流が生まれる。
- 新しい文化を育てる場所、何かが始まる場所、港町としての玄関機能＝ゴールではなくスタートとして「ここから始まる」場所に。
- 戻ってきたいと思えるまちに。青春時代の思い出や、こどもの頃の体験など、形に見える郷土だけでなく、体験を通じて育まれる郷土愛が福山らしさをつくる。